

教科共通の問題解決の枠組みを基盤とした 各教科における情報モラル教育指導法の確立

（平成27年度学術研究助成基金助成金 基盤研究（C）に採択）



メディアコミュニケーション学部
情報文化学科

玉田 和恵 教授

現行学習指導要領では、全校段階の各教科・科目で、そのねらいに即した学習活動を通じ、情報モラルを身に付けさせる指導を行うことが求められています。しかし、教員の現状は理想とは遠く、各教科・科目の中で情報モラル教育を実施する以前に、道徳の時間など情報モラルに特化した授業でさえ適切に設計・実施できる教師が少ない状況です。そこで、本研究グループは、まず、道徳教育の枠組みを活用した「3種の知識」による情報モラル判断の指導法を確立し、教師の指導力向上に効果があることを確認しました。さらに、教科教育との連携を図る準備として、問題解決力育成のための「情報的な見方・考え方」と統合した指導法を開発しました。

以上を踏まえて、本研究では、各教科・科目の学びと情報モラル教育との統合を図る教科教育のための授業設計の枠組みを確立し、それを活用して授業実施できる教師を育成する教師教育の手法を確立することを目指します。ここには、各学校段階、各教科での授業・教材の開発と効果検証、教師教育での指導効果の検証などを含みます。本研究の特色は、単に、情報モラル教育に関する効果検証にとどまらず、教科教育の改善への効果検証を含む点にあります。また、本研究は単なる開発研究ではなく、学術研究として、教師の特性（教師としての発達段階等）と実施上克服すべき課題との関係をモデル化し、範例としての授業・教材例をうまく転用する視点や、それらを活用するのに必要な教師としての資質を高める方策についても検討する点の特徴とします。

具体的には、我々の問題解決フレームワークでは、解決策を発想する過程と、それを批判的に検討する過程とを行き来しながら、より良い問題解決を図ります。批判的に検討する過程で「3種の知識」に基づくモラル判断を適用し、「正義に反しないか」「他人に迷惑をかけるか」「自分が被害者にならないか」という観点で共通的に考察させます。この枠組みを学校段階別に適用する指針として、道徳教育との関連性を考慮し、類推の対象として使える事例や候補群を整理したり、技術・家庭科や情報科で学ぶ情報技術の特性に関する知識との関連性を整理する必要があります。その上で、それらを活用した指導案や教材例を体系的に作成し、各都道府県の教員研修や大学の教員養成課程で、指導案・教材を用いた研修を行い、模擬授業とアンケートで指導力向上への効果を検証します。さらに、成果を教員研修支援システムとしてe-learning教材化し、ログに基づいて効果検証と指導法の改善を図る仕組みを検討していきます。

科学研究費補助金（学術研究助成基金助成金）が交付された研究を紹介します。